

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2273100137		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム ゆひもや (2階)(3階)		
所在地	静岡市清水区由比 427-14		
自己評価作成日	平成23年11月22日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2273100137&SC](http://ai.gokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2273100137&SC)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成23年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・湖山医療福祉グループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」・職員行動指針10ヶ条の追求。</li> <li>・自立支援、個別ケアの追求</li> <li>・地域への貢献「ふれあい勉強会」開催</li> <li>・重度の方だからこそ受け入れる姿勢をもつ</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設後7年が経過しているが、新たな試みや改善を怠らない事業所である。例えば地域に貢献することを目標として、職員が講師を務める「ふれあい勉強会」を今年度から開催している。この勉強会は回覧板で広報したり、ポスターを掲示させてもらったところ50人もの参加があり、2回目、3回目につながっている。職員は集客に協力したり、講師としての勉強を重ねた結果自信となり、ステップアップにつながったという。他にも法人として定期的に研修会が開催されているため、職員は勤務経験や職種に応じて向上する機会が与えられている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所独自の理念、グループホームの理念を掲げている。職員行動指針を会議・朝礼で唱和し、理念を共有して実践につなげている。	法人理念を毎日唱和し、まずは覚える事が大事としている。記述試験もおこない、その成果もあつてか職員には少しずつ理念が浸透してきている。ホーム独自の理念については、職員全体で考えて作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	H23年8月、由比商工会祭りに参加し、出店している。地域のお祭りでは御みこしが施設に来てくださり楽しむ事ができました。又施設での防災訓練にも近隣の方に参加していただき消火器の使い方・搬送訓練などを一緒に行っています。	事業所で毎年開催している「ゆひもや祭り」について、今年度は夜間の開催を試みた。例年とは逆に普段は活動してもらっているボランティア等をもてなしたところ、参加者から「(事業所としては)珍しい取り組み」と好評だったという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度の事業所運営方針で掲げている地域への貢献で「地域ふれあい勉強会」を開催しています。6月・認知症の勉強会・8月・介護保険についての勉強会を開催しました。12月には介護技術についての勉強会を予定しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催し、ホームでのお客様の様子や、行事報告を行い理解を得るよう心掛けています。防災ボランティアコーディネーター、地域包括支援センターからも参加も得ている。貴重な意見やアドバイスをいただきサービスの向上に努めている。	運営推進会議には町内会、家族、地域包括職員の他に、災害ボランティアコーディネーターが毎回参加している。今年度は特に防災に関する質問も多く、地域で開催された防災のイベントに参加する機会にもつながっている。	欠席した委員に対しても、議事録を発送することにより会議の結果が役立つことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域運営推進会議への参加や、地域に向けての介護保険の勉強会で地域包括支援センターの主任ケアマネ様にも参加して頂き助言を頂くなど協力を得る事ができています。	市町村合併により、以前に比べると行政との関係が薄くなってしまっている。運営推進会議の案内を書面で提出し議事録を提出しているが、行政職員の出席は少ない。月1回のケア会議(事業所連絡会)は市町村合併と共に立ち消えてしまった。	事業所の連絡会が再開され、事業所間や行政とのかかわりが増える事が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については常に会議で話し合う機会を設けている。研修に参加した職員からの研修報告をうけて自分を振りかえり機会としている。	「身体拘束・虐待防止」についての研修会が法人で毎年2回開催され、職員は参加している。身体拘束は絶対にしないという方針を持っているが、万一来て備えて必要な書面を整備している。ペット柵についても身体拘束に該当する場合があるととして留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修に職員が必ず参加し、全体会議の中で研修報告を行っている。研修報告について話し合い、自分を振り返る事で防止に努めている。スピーチロックについてはその場お互いに注意し合うように心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議には、利用者の家族にも参加していただいています。家族会では、ご家族同士で話し合う時間を設けている。寄せられた意見などは、ホーム会議で報告し話し合っている。	委員会が主となり家族会を開催している。家族会では同じような境遇での悩みを打ち明けるなど、相互交流の場として役立っている。平素から家族に対し、例えば看取りについてなど事業所の方針を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、主任・各部署のリーダー会議を行いその報告をホーム会議で行い、話し合う機会を設けている。	運営会議では、報告会に終始することのないよう、具体的に意見を聴取している。職員は各種委員会に属し、責任をもって取り組んでいる。また個人面談を定期的実施していて、「お客様の目標」「職務としての目標」「自分自身の目標」等を定めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材評価表や業務目標設定表に各自が記入し、目標達成の為に日々努力している。各部署会議で目標や成果を発表する事で把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修・施設外研修に参加出来る機会を設けている。講師を招いての介護基礎研修には全職員が参加しています。又会議の中で時間を設けて介護技術の反復を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会は少ないが、他施設の方を招いて「接遇」の勉強会や介護保険の勉強会に協力して頂いています。同法人内では2ヶ月に1回こやまケア会議を行い勉強会や交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人と面接し不安や要望を伺う機会を作っています。自ら訴える事が出来ないお客様に対しては、家族から要望などを伺い安心して暮らせるように配慮し、お客様との関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時ご家族と納得で着るまで話合う事で安心していただき、要望を伺いケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報に解る所を記入して頂く事などで最優先されるサービスは何かを見極めるように努力している。按摩マッサージ、散髪などのサービスがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念でもある「嬉しい事は倍に、悲しい事は半分」にいつも私達がそばにいるからだいじょうぶ。」を忘れずにお客様と信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とお客様との絆を大切に、家族と共に支える関係性を作っている。家族会や行事、旅行、受診など常に連携を図っています。家族に毎月お便りを出し、お客様の日々の様子を伝えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事に参加する事で、馴染みの人達とも楽しく過ごす事ができる様に配慮している。併設されているデイサービスにも自由に行き来し、馴染みの利用者との交流が図れるように対応している。	「自宅に帰りたい」という希望があった際には、週末一緒に自宅を見に行き安心してもらったこともある。そのほかにも利用者の希望で漁港に行くなど、慣れ親しんだ場所への関係支援をおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同志の関係を壊さないように配慮し、間に職員が入る事でお互いに関わりが持てるように努めている。各階を自由に行き来する事で馴染みの人が増え、楽しく過ごす事ができる様にサポートしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人に関わる保健医療、福祉関係者、ご家族と情報交換を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や家族会などで家族の意見や要望を伺い、お客様からは、担当の職員が要望や希望を伺い把握するように努めている。お客様の夢・希望の一つ叶える事が職員の目標となっており、努力している。	伝達できる利用者については出来るだけ会話でコミュニケーションし、会話できない利用者については家族から聞き取るようにしている。「意向は元気なうちに把握(実現)することが大切」という考えで、早期の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご家族にセンター方式のアセスメントシートへの記入をお願いする。又面会時に話を伺うなどして把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、バイタルチェック表、申し送りノート、ホーム会議などで確認し把握する。ケアプラン作成時には、アセスメントシートに記入する事で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のホーム会議でモニタリング、サービス担当者会議を行い見直し、プランに生かしている。モニタリングはケアプランの説明時に家族に報告させて頂いています。	ホーム会議では、利用者の担当などから生活目標について提案がおこなわれ職員全員で協議している。生活記録にはプランも記載されているので、実践する職員にもモニタリングしやすくなっている。2階では、はっきりと意向を表せる利用者も多いため、希望の実現をめざした計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づくサービスの実践に努め、実践の結果が把握できる様に生活記録を作成している。1ヶ月毎に実践の結果を確認し、プランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームだけの生活に捕らわれず各階自由に行き来できる様に対応している。デイサービスとの合同行事や慰問にも参加している。DSの月間予定表を居室に貼り、好きなレクに参加し楽しませているお客様もいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議には民生委員、地域包括支援センター、地区長様、災害ボランティア、に参加していただき協力を得ています。小・中学生や幼稚園児が慰問や介護体験、見学などに来られる。防災訓練は近隣の住民の協力を得て行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様の希望に合わせて医療機関を決めている。協力医を確保し2週に1回の定期の往診を受けているお客様もいる。往診時は看護師が対応し、医師との連携を行っている。職員の勤務調整を行い受診の同行の対応を行っている。	家族の支援が諸事情により困難になってきたため、職員が受診に同行することが多くなってきている。同行した職員の記録や家族からの聞き取りについては「医療連携記録簿」に記載し、情報共有に活用している。週3回は看護師の勤務があり、詳細な状況把握ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専属の看護師がおり健康チェックを行っている。又、DSの看護師とも連携を図り、看護師は24時間体制を取り緊急時にも備えている。医療連携簿を作成し把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には看護師と情報交換を行い、医師からの説明がある時はご家族の了解を得て説明を聞かせて頂き状態を把握している。近隣の医師からの紹介状を持ち受診し、総合病院との連携体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針・マニュアルが作成しており、重度化が進んでいるお客様のご家族に看取りの指針を説明し、ご家族の了解を得ている。地域運営推進会議や家族会でも説明している。ホーム会議で職員はその都度確認している。	「重度だからこそ受け入れる」として、看取りが必要な場合でも積極的に受け入れている。家族からは「最期まで慣れ親しんだ環境で」という希望も多く、事業所として既に3名の看取り実績がある。救急用カルテを備え、搬送された場合に速やかに対応できる体制が覗えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講したり、全体会議で、初期の対応の勉強会を行っている。各階に人口呼吸用マスクを常備している。お客様全員の緊急カルテを作成し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は近隣の住民の協力を得て一緒に行っている。その他にも独自で2カ月に1回、避難誘導訓練、備蓄の確認を行っている。ご家族用の緊急連絡網を作成し、家族会でも緊急時の対応について話し合いを行っています。地域運営推進会議でも常に防災についての話し合いを行っている。	事業所の防災訓練には、隣近所からも毎年参加がある。震災を教訓に備蓄を見直し、事業所独自のマニュアル作成も予定している。地元で開催された防災イベント「由比中学校防災事業」には職員3名が協力し、地域ぐるみでの取り組みが覗えた。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の尊厳を守る為、さりげない対応や言葉掛けを心掛けている。一人ひとりに合った言葉の掛け方などに配慮している。本人の意思を最優先にする事を大切にしている。	プライバシー確保の取り組みとして、浴室に暖簾を設置したり居室の見回り際にはさりげなく覗くなど工夫している。また、接遇については同法人の他事業所エキスパートに講師を依頼していて、慣れ親しみ過ぎないように戒めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の可能なお客様には必ず意思の確認を行い、本人の希望に合わせている。又本人の状態に合わせた声掛けや介助を行い楽しみを持って生活できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催し物や行事がある時はその都度伝えて希望を伺っている。お客様の体調や気分により日々関わり方を考慮し、申し送りを行い職員が把握できる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着替えができる様に配慮している。なるべく自己決定して頂ける様に声を掛けている。月に1回ビューティーヘルパーの日があり、利用されるお客様もいる。男性のお客様は毎日髭剃りができる様に対応している。洗顔が無理なお客様には温かなタオルをお出しするなど配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けの量・柔らかさ・食器の重さ・大きさなど一人ひとりに合わせた物を提供している。食事作りに参加する機会が少なくなっているが、食材の買い物には一緒に出掛けています。片付けは毎回一緒に行っている。	食事に飽きがないよう、時にはお弁当で食事を出すなど楽しみがもてるような工夫がある。毎月行事食も提供している。調査時は嚥下困難な利用者に職員が付添い、時にユーモアを交えて介助している光景がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを管理し、水分摂取量は記録し毎日把握し、対応しています。(バイタルチェック表) 個々の状態把握をし、食事形態の対応をし、お客様の要望には柔軟に対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けを行い本人に合わせて介助しているが、完全とまでは言えない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い一人ひとりに、さりげない声掛けや誘導での排泄を支援しています。紙パンツやハットをなるべく使用せず、トイレでの排泄を基本としている。	「布パンツを使用し、トイレで」という方針を共有している。夜間は状態に応じてパットなどを使い分けることにより、紙パンツに頼らない排泄が実現した例もある。オムツ代が高額にならないように、委員会を中心にそれぞれの利用者に適した介助方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や排泄の記録を行い状態を把握し、体調を考慮し軽い運動ができる様に声を掛けたり、ヨーグルト・牛乳などを勧めている。食物繊維の多い健康食品などを飲まれているお客様もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を決めずにお客様の希望に沿って入浴できる様に対応しています。女性のお客様は希望により女性の職員が対応するなど配慮しています。季節に合わせた入浴剤やお湯の温度調節を行い気分良く入浴して頂ける様に努めています。	入浴の曜日・時間については制限を設けておらずいつでも入浴できる。入浴を拒否する場合は無理強いすることなく、全身清拭などで清潔保持している。また浴槽がやや深いため、踏み台など介助用具も活用している。職員が選んだ入浴剤を活用したり、保湿にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の希望や状態に合わせて昼寝や休息を取っていただいています。昼夜逆転しないように日中の過ごし方については配慮しています。夜間は時間になったから寝るのではなく、満足されるまでフロアで過ごしていただき、気持ちよく入眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ミスやセットミスがないように服薬管理シートやセットマニュアルが作成されています。常に状態の変化に留意し医療連携記録簿の確認や受診記録簿の確認を行い内容の理解に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や、楽しみごとを出来る限り支援したいと考えています。家事に参加したくなるような声掛けの仕方を考えたり、散歩・ドライブ・買い物などで気分転換をして頂き、将棋や塗り絵・歌を唄う・エレクトーンを弾くなどして楽しんで頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば買い物に同行したり、散歩や食材・おやつなどの買い物などに常に外出する機会を設けている。年1回の家族旅行では今年は富士花鳥園に行き家族や職員と楽しい1日を過ごす事が出来ました。	周囲に旧東海道など散策に適した環境もあり、天気が良ければ毎日散歩している。地元のふれあい祭りや文化祭などの見学にも多くの利用者が参加できている。ドライブも頻繁におこない、遠くは掛川まで小旅行に出ている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お客様の預かり金は事務所で管理しているが、買い物の希望がある時は、出かける時に持参して頂き、お金を使えるように支援しているが、機会が少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の声の聞き取りが難しくなっているお客様が増えており、電話を利用される機会が少なくなっています。自分で絵手紙を書き家族に送っているお客様もいます。年賀状は毎年ご家族に出す支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こやまケアでの活動の一環として、クリンリネス活動を実施しています。環境の整備を行い、気持ちよく生活して頂ける様に努めています。季節感を採り入れ室内装飾に植物を置いたり、型染めを飾るなどし、生活感のある雰囲気作りを心掛けています。	館内には季節の飾り付けやおこなわれ、入口には職員の顔写真を掲示されている。併設するデイサービスとは合同行事を毎月開催し、野外パーティーや運動会などでは大変盛り上がり上がっている。共用空間には和室空間も設けられていて、掘りごたつでは一緒に食事をすることもあるという。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中央の和室やフロア、居室など自由に行き来している。フロアのソファや和室の掘りごたつなどがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族には、お客様の過ごし易い居室作りに協力して頂き、馴染みの家具やテレビなどを持参していただいている。家族からのメッセージや写真、誕生日のお祝いのメッセージ、自分で作成した物などを飾り雰囲気作りを行っています。	居室は朝、昼、夕と3回換気している。換気後は香を焚くなど、居心地の良さにも配慮している。2階では仏壇や筆筒を持ち込んだり、使い慣れた鏡台が置かれた居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の身体状況に合わせて環境作りを心掛けています。必要に応じて手すり、場所の明記などを行い、自立した生活が送れるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、事業所独自の理念を掲げている。朝礼・会議の前に唱和し共有を図っている。グループホームの理念は各階に掲示し、お客様のとの気持ちの共有に取り組んでいる。	法人理念を毎日唱和し、まずは覚える事が大事としている。記述試験もおこない、その成果もあつてか職員には少しずつ理念が浸透してきている。ホーム独自の理念については、職員全体で考えて作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年2回の防災訓練は近隣の方の協力を得て一緒に行っている。8月には商工会祭りに出店しました。10月には「ゆひもや祭り」を開催し地域のボランティアの方達を招いて一緒に楽しむ事ができた。	事業所で毎年開催している「ゆひもや祭り」について、今年度は夜間の開催を試みた。例年とは逆に普段は活動してもらっているボランティア等をもてなしたところ、参加者から「(事業所としては)珍しい取り組み」と好評だったという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3か月に1回地域に向けての勉強会を開催している。認知症の勉強会、介護保険についてなど行っている。次回は介護技術についてを予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は2か月に1回開催し、お客様の様子や、行事、の報告を行いホームへの理解を得ている。貴重なご意見やアドバイスを頂いています。運営会議の報告をホーム会議で行いサービスの向上に努めている。	運営推進会議には町内会、家族、地域包括職員の他に、災害ボランティアコーディネーターが毎回参加している。今年度は特に防災に関する質問も多く、地域で開催された防災のイベントに参加する機会にもつながっている。	欠席した委員に対しても、議事録を発送することにより会議の結果が役立つことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議や地域に向けての勉強会に地域包括支援センターからも協力を得て行っている。	市町村合併により、以前に比べると行政との関係が薄くなってしまっている。運営推進会議の案内を書面で提出し議事録を提出しているが、行政職員の出席は少ない。月1回のケア会議(事業所連絡会)は市町村合併と共に立ち消えてしまった。	事業所の連絡会が再開され、事業所間や行政とのかかわりが増える事が期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には必ず職員が参加しており会議で話し合う機会を設けている。「身体拘束0宣言」の資料を掲示し確認している。	「身体拘束・虐待防止」についての研修会が法人で毎年2回開催され、職員は参加している。身体拘束は絶対にしないという方針を持っているが、万が一に備えて必要な書面を整備している。ベットの柵についても身体拘束に該当する場合があるとして留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し全体会議で研修報告を行っている。自分を振り返る事で防止に努めている。スピーチロックについてはその場で注意し合い、その都度話合っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	6月に独居のお客様が入所され現在成年後見制度の利用を地域包括支援センターに相談し進めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはゆひもやの理念、経営方針を詳しく説明し納得して頂いている。契約書・重要事項説明書の説明。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議にご家族に参加して頂き意見を述べて頂いている。家族会ではご家族同士の話し合う時間を設け、要望や意見など伺っている。意見や要望はホーム会議で報告し話合っている。	委員会が主となり家族会を開催している。家族会では同じような境遇での悩みを打ち明けるなど、相互交流の場として役立っている。平素から家族に対し、例えば看取りについてなど事業所の方針を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、主任リーダー会議の報告をホーム会議で行い話し合う機会を設けている。	運営会議では、報告会に終始することのないよう、具体的に意見を聴取している。職員は各種委員会に属し、責任をもって取り組んでいる。また個人面談を定期的実施していて、「お客様の目標」「職務としての目標」「自分自身の目標」等を定めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材評価表への記入や業務目標設定表を各自で設定し努力している。目標や成果は各部署会議で発表し把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修、施設外研修に参加できる機会を設けている。講師を招いての介護基礎研修には、全職員が参加しています。ホーム会議の中でも介護技術の再確認を繰り返す事で、確りと自分の物となる様に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流する機会は少ないですが他施設の方を招いての「接遇」の勉強会や、介護保険の勉強会に協力して頂いています。同法人内では、2カ月に1回こやまケア会議を行い勉強会や交流を図っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面会し話を伺っている。訴えのできないお客様に対しては本人の気持ちを読み取れる様に努力し、信頼関係を築くことから始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し、納得できるまで話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先されるサービスは何かを見極める様に努力している。按摩マッサージや散髪などのサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に共感する事の大切さは、ホームの理念でも掲げているので職員は理解している。常に同じ目線で、考える事が出来る様に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りで日々の様子を家族に伝えていく。行事のお知らせや、受診日の確認、又家族会を開催する事で、家族との連携を図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや行事に参加し馴染みの人達とも楽しく過ごされています。来客時は居室でゆっくりと過ごして頂ける様に配慮している。ドライブで出掛ける時は自宅の近くを走るなど心掛けています。	「自宅に帰りたい」という希望があった際には、週末一緒に自宅を見に行き安心してもらったこともある。そのほかにも利用者の希望で漁港に行くなど、慣れ親しんだ場所への関係支援をおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士の関係を大切に、お互いに助け合いコミュニケーションが取れるように職員が間に入りサポートしています。各階を自由に行き来し、馴染みの関係を保てるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や福祉機関への相談が有る時はご家族を支援し、関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様一人ひとりに担当の職員がおり希望や要望を把握するように努めている。お客様の夢を一つかなえる事が職員の目標としている。困難なお客様は、安全面に配慮し、楽しく生活出来るように配慮している。	伝達できる利用者については出来るだけ会話でコミュニケーションし、会話できない利用者については家族から聞き取るようにしている。「意向は元気なうちに把握(実現)することが大切」という考えで、早期の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や家族会などで話を伺う。また入所時に家族にアセスメントシートに記入をお願いし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表や生活記録、業務日誌、ホーム会議、申し送ノート等で毎日確認している。ケアプラン作成時には、アセスメントシートに記入する事で把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議でモニタリング、サービス担当者会議を開催し、見直しや問題点について話し合いプランに生かしている。	ホーム会議では、利用者の担当などから生活目標について提案がおこなわれ職員全員で協議している。生活記録にはプランも記載されているので、実践する職員にもモニタリングしやすくなっている。3階には重度の利用者も多く、生活動作が自分の力で安全におこなわれるよう計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に個別の介護計画が記載されており、1カ月毎に実践の結果を把握することができる。実践の結果はホーム会議で話し合いプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設しているDSのお客様との交流を図り、合同行事や慰問、には自由に参加している。DSでの小物作りなどに参加されている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進会議には民生委員、包括支援センター、地区長様防災ボランティアの方に参加して頂き協力を得ている。地域のボランティアや中学生の方に行事を盛り上げて頂き、幼稚園児、小学生の訪問を受け楽しませている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様の希望に合わせて医療機関を決めている。協力医を確保し2週に1回の往診を受けているお客様もいる。往診時には看護師が対応し医師との連携を図っている。家族の都合で受診が出来ない時は勤務調整を行い対応している。	家族の支援が諸事情により困難になってきたため、職員が受診に同行することが多くなってきている。同行した職員の記録や家族からの聞き取りについては「医療連携記録簿」に記載し、情報共有に活用している。週3回は看護師の勤務があり、詳細な状況把握ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH専属の看護師がお礼体調の確認を行っている。又DSの看護師とも連携を図り対応している。医療連携簿を作成し把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態に合わせて医師家族と相談している。入退院時には看護師と話し合う機会を設け安心出来るように対応している。医師からの説明時には家族から了解を得て一緒に話を伺い把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針、マニュアルが作成されており重度化の進んでいるお客様のご家族には看取りの指針の説明を行い了解を得ている。地域運営推進会議や家族会でも説明をしている。職員はホーム会議でその都度指針の確認を行っている。	「重度だからこそ受け入れる」として、看取りが必要な場合でも積極的に受け入れている。家族からは「最期まで慣れ親しんだ環境で」という希望も多く、事業所として既に3名の看取り実績がある。救急用カルテを備え、搬送された場合に速やかに対応できる体制が視えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講したり、全体会議で初期対応の勉強会を行っている。各階に人工呼吸マスクを常備してある。お客様全員の緊急カルテを作成し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を近隣の住民と一緒にやっているホーム独自で2カ月に1回の避難誘導訓練、備蓄品の確認を行う。ご家族の緊急連絡網を作成し家族会で緊急時の対応についての話し合いをしています。地域運営推進会議でもつねに防災の事を議題に挙げています。	事業所の防災訓練には、隣近所からも毎年参加がある。震災を教訓に備蓄を見直し、事業所独自のマニュアル作成も予定している。地元で開催された防災イベント「由比中学校防災事業」には職員3名が協力し、地域ぐるみでの取り組みが視えた。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を確認し、希望に合わせて対応しているが、細かい所まで配慮が出来ていない事もある。一人ひとりに合った介助の仕方や、言葉掛けの仕方などホーム会議で話し合い、確認し合っています。	プライバシー確保の取り組みとして、浴室に暖簾を設置したり居室の見回りの際にはさりげなく覗くなど工夫している。また、接遇については同法人の他事業所エキスパートに講師を依頼していて、慣れ親しみ過ぎないように戒めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声を掛ける事や、側に寄り添う事でお客様の希望を聞きだして行けるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆとりを持った対応を心掛け、状態に合わせた声掛けや、お客様の希望に沿うように対応出来るように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様の状態に合わせて何種類かの衣類の組み合わせの中から選んで頂くなど自分で選ぶ事が出来る様に声を掛けている。ビューティーヘルパーを利用したり、ご家族と一緒に馴染みの美容院に行かれるお客様もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理と一緒に作る機会は少ないが、カレーなど簡単な食事の準備は時々行っています。食事の片付けは毎回洗った食器をテーブルに運び、車椅子の方でも参加できるようにしています。	食事に飽きがないよう、時にはお弁当で食事を出すなど楽しみがもてるような工夫がある。毎月行事食も提供している。調査時は嚥下困難な利用者に職員が付添い、時にユーモアを交えて介助している光景がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力摂取出来る様に食器の重さや大きさ等に配慮している。体調に合わせて調理法を工夫し、毎日の摂取量を記録し把握している。いつでも好きな時に摂取する事が出来る様に食べやすい物を準備し、お出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けを行い本人に合わせて介助しているが、完全とまでは言えない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後の声掛けは勿論の事、本人に合わせた声掛けを行っている。紙パンツやパット等は本人に合った使い分けを行っている。お客様一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにチェック表を記入し把握に努めている。	「布パンツを使用し、トイレで」という方針を共有している。夜間は状態に応じてパットなどを使い分けることにより、紙パンツに頼らない排泄が実現した例もある。オムツ代が高額にならないように、委員会を中心にそれぞれの利用者に適した介助方法を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給量が1日1000ml以上(食事以外)摂取出来る様に対応している。散歩や軽い運動ができるように配慮している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には体調の確認を行い、2日に1回は入浴できるように声掛けしている。生活向上委員が季節に合った入浴剤を準備し気分良く入浴して頂ける様に配慮している。	入浴の曜日・時間については制限を設けておらずいつでも入浴できる。入浴を拒否する場合は無理強いすることなく、全身清拭などで清潔保持している。また浴槽がやや深いため、踏み台など介助用具も活用している。職員が選んだ入浴剤を活用したり、保湿にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態、夜間の様子などを把握し昼寝の声掛けを行い随時対応している。夜間眠れない時は話を聞き不安の解消に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のリストを作成し新しい薬が処方された時は申し送りに書き全職員が把握できるようにし注意を促す。医師に確認し蜂蜜、ゼリーなどを使用し本人に合った服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の意思を確認して慰問、散歩、ドライブに誘っています。家事への参加は限られたお客様が中心となっていますが、できないと決めつけず視点を変え、できる事を見つける様に心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換でもあるので、同じ場所にいる事が無い様に配慮しています。家族旅行で少し遠出をしています。	周囲に旧東海道など散策に適した環境もあり、天気が良ければ毎日散歩している。地元のふれあい祭りや文化祭などの見学にも多くの利用者が参加できている。ドライブも頻繁におこない、遠くは掛川まで小旅行に出ている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つ大切さを理解している。預かり金を持って一緒に買い物に出かける事もあります。家族の了解を得て個人で持っているお客様もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の音が聞き取りにくくなっているお客様が増えている為利用が殆ど有りません。家族に年賀状を書く等支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お客様の居室、フロアに温度計を置き常に確認しています。家庭的な雰囲気を作る様に心掛けています。	館内には季節の飾り付けがおこなわれ、入口には職員の顔写真を掲示されている。併設するデイサービスとは合同行事を毎月開催し、野外パーティーや運動会などでは大変盛り上がり上がっている。3階からは駿河湾や遠く伊豆半島も見られて眺望がよい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やフロアは自由に使って頂き廊下には長椅子を置きフロアにはソファを設置しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室や居間は自由に行き来して頂き、さりげない見守りを心掛けています。居室には誕生日のカードや写真を張っています。本人の状態に合わせて畳をいれている部屋もあります。	居室は朝、昼、夕と3回換気している。換気後は香を焚くなど、居心地の良さにも配慮している。3階では畳を敷き、和室として寛いで過ごすことができている居室もみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お客様の身体機能に合わせてその都度工夫しています。手すりは随時必要に応じて設置している。		